

元本郷浄水場ポンプ棟（昭和初期）

## 旧八王子水道建設の歩み

明治三十年（一八九七）四月、八王子の大火災により伝染病が大発生した。早くから水道の必要性が提唱されてはいたが、井戸による飲料水の確保ができていたこと、水道設備には膨大な費用がかかることなどから時期尚早とされていた。

大正六年（一九一七）八王子は町制から市制に変わり、人口増加に伴う公衆衛生上の設備、基幹産業の織物工場、他の工場建設等のためにも水道施設の必要性が高まってきた。大正十四年二月二十一日、市議会において「浄水道敷設」の案件が可決された。計画では、南北浅川の合流地点を水源として浄水場（元本郷）と配水池（平塚山）を建設し、自然流下で各家庭に給水することにした。一連の水道建設により、八王子の水道網が全市へと広がり今日に至っている。なお、平成二十四年四月一日、市から東京都に水道関係すべてが移管された。

## ◇散歩のみどころ

八王子市内で一番早く敷設された元本郷浄水場（現、元本郷浄水所）から散田配水池（現、散田配水所）までの送配水道路を辿る凡そ四km弱の行程。

南浅川と北浅川合流地の南に位置する東京都水道局を見学、敷地内の水神様にお参りした後出発。水道局から市役所入口交差点に向かう道を歩き市役所通りに入る。市役所通りを南へ歩き甲州街道を横切る。更に、御所水通りに繋がる道を歩き、JR中央線第一水道踏切を渡るとすぐ右に入る細い道が南西に伸びている。この道が水道山（散田給水所）へ通ずる道になる。途中路傍の石仏、千人塚地藏尊、子育地藏尊等をお参りした後、百三十段の階段を登る。その上が市内で一番古い散田給水所である。その後、配水の道を下り、松姫通りに出て富士森公園で解散。

## ①元本郷町浄水場

明治三十年（一八九七）四月八王子は街の大半を焼き尽くす大火災に見舞われ、その後も大小の火災が発生。そのため伝染病も多くみられたことから水道の必要性が提唱されていた。しかし、飲料水は井戸を簡単に掘ることができたので十分確保出来、水道は火災時の消火栓としての役割の方を重要視されていた。

明治四十年（一九〇七）には水道敷設の設計を完了したが、膨大な費用がかかるため、時期尚早として実現しなかった。明治四十四年（一九一一）にも水道調査費を予算計上したが、良い結果が得られなかった。大正六年（一九一七）、八王子は関東で八番目に市制が施行された。町制時代より人口が増加し、公衆衛生上だけでなく、当時の八王子の基幹産業である織物工場やそれ以外の工場建設のためにも、水道施設の必要性が出てきたのである。

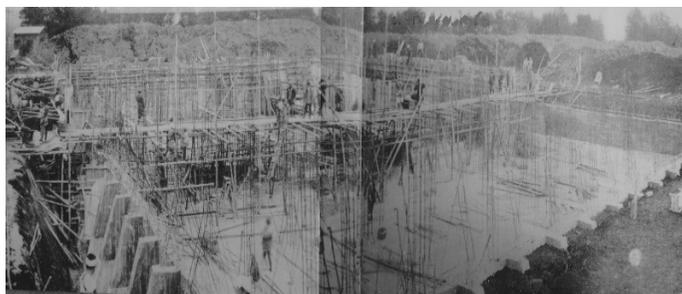
大正十二年（一九二三）九月の関東大震災で、市街地は多大な被害を被った。これを契機に水道敷設の機運が高まった。しかし、水源が決まらず、財政状況からの延期の意見も市議会では奮出していった。が、大正十四年（一九二五）二月二十一日、ようやく市議会において「上水道敷設」の案件が可決された。内容は、市内元本郷町の多賀神社北側で南北浅川の合流地点を水源として浄水場を建設。横山村散田平塚山に配水池を造り、自然流下で各家庭に給水するものであった。

予算総額百二十五万円で、大正十四年から三カ年の継続事業であった。大正十五年（一九二六）の一般会計及び特別会計予算総額は、四十四万二千六百四十一円であったことから膨大な予算だったことが伺える。この歳入は、全額起債であった。

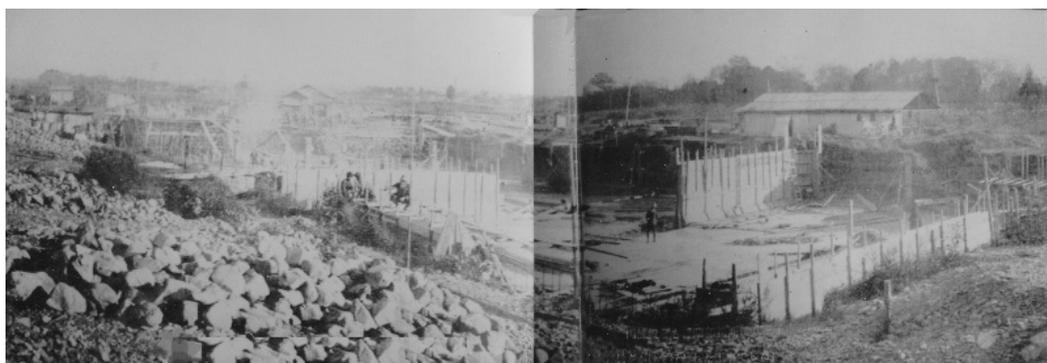
水道事業を担う組織として臨時水道部を設置し、大正十五年十一月二十日に上水道工事の起工式を元本郷

町水源地で行い総工費九十六万三千二百八十一円の工事はスタートし、昭和三年九月一日に給水を開始した。当時の規模は、計画給水人口六万人、一人一日給水量百十二リットル、一日最大配水量六千七百 $m^3$ であった。給水後の利用者は、当初計画を下回り、使用料収入による市財政の強化どころか市債の償還にも不足する事態となり、上水道事業は不況のおおりもあつて悪化する一方で、市財政のお荷物となつていった。このため昭和五年（一九三〇）市の境界五百m以内の範囲で隣接各村に給水区域の拡大を図るとともに、水道未使用者に水道特別税を課税しようと試みたり、使用者優遇策を取つたりしたが、八王子の水道普及率は伸び悩んだ。昭和四年（一九二九）三月に臨時水道部は廃止され水道課が設置されている。市内の水道料金は、メートル制（計量給水制）と定額制（放任給水制）の二本立てで、総計四千四百本の契約の内メートル制は九百

本だけであつた。このため夏の需要期には使い放題使われて、一日の平均使用量は給水計画人口の六万人分に達しようとしていた。これに対応するため、昭和八年（一九三三）四月から全部をメートル制へと切り替え、普及率も徐々に上がつていった。



建設中の散田配水池（昭和初期）



建設中の元本郷浄水場（昭和初期）

● 建設中の元本郷町浄水場と  
散田配水池（昭和初期）

両施設とも八王子市の威信をかけて行われた工事であった。当時の最新技術と職人の技を結集し建設された。これらの施設はその後も順調に稼動し続け、八十年経った現在でも一部ではあるが使用されている。



元本郷町浄水場（1970年頃撮影）



測量機器（トランシット）  
昭和二十七年頃

右 旧本郷町浄水場表札  
左 旧散田配水池表札  
いずれも制作時期は不明



左胸の刺繍部分

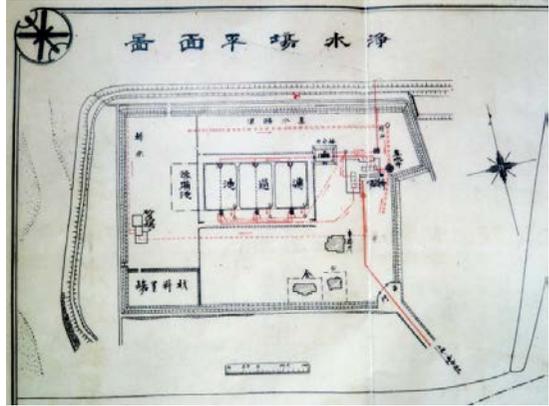
八王子市水道局のマーク

上 工事台帳  
下 負債調査書





配水池平面図



浄水場平面図

## ● 水神様

昭和三年（一九二八）十二月、臨時水道委員会は水源に水神を祭る決定を下し、浄水場敷地内（現在の多賀公園隣接地）に水神様をお祀りした。

当初、毎年四月二十四日に盛大な祭りが行われたが、戦後GHQの「公施設の神社取り払い」の令により、鳥居、玉垣までが撤去させられた。その後、昭和二十七年頃復元され、質素なお祭りが二回ほど行われたが、明神町・中野町浄水場落成祝賀式典以後は行われていない。

昭和五十八年（一九八三）、八王子市役所元本郷新庁舎に「水道部」が開設されたのを機に、元本郷水道庁舎は取り壊され「多賀公園」として整備された。この折、水神様も現在の位置に移されたといわれている。



水神様建立碑



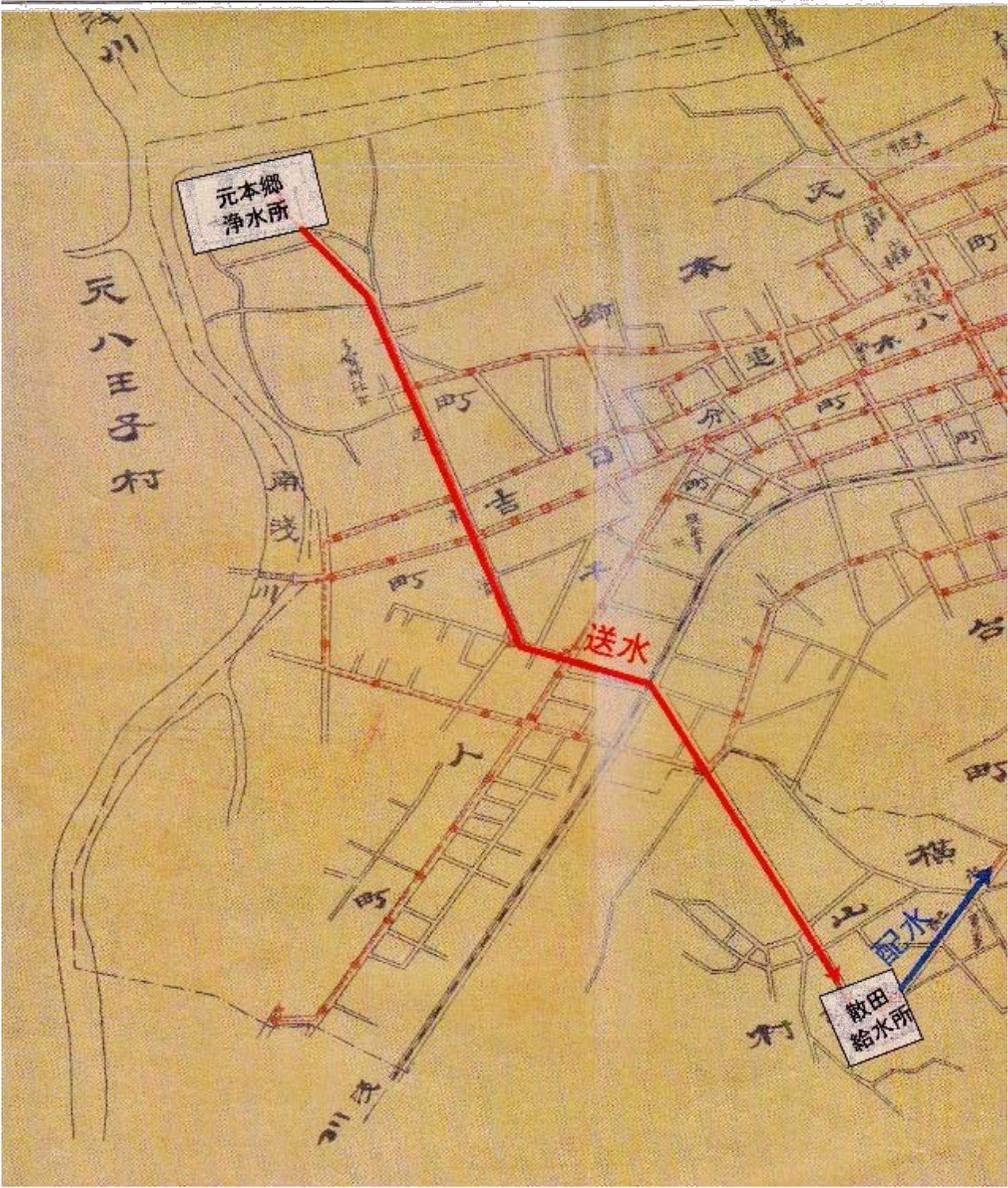
水神様



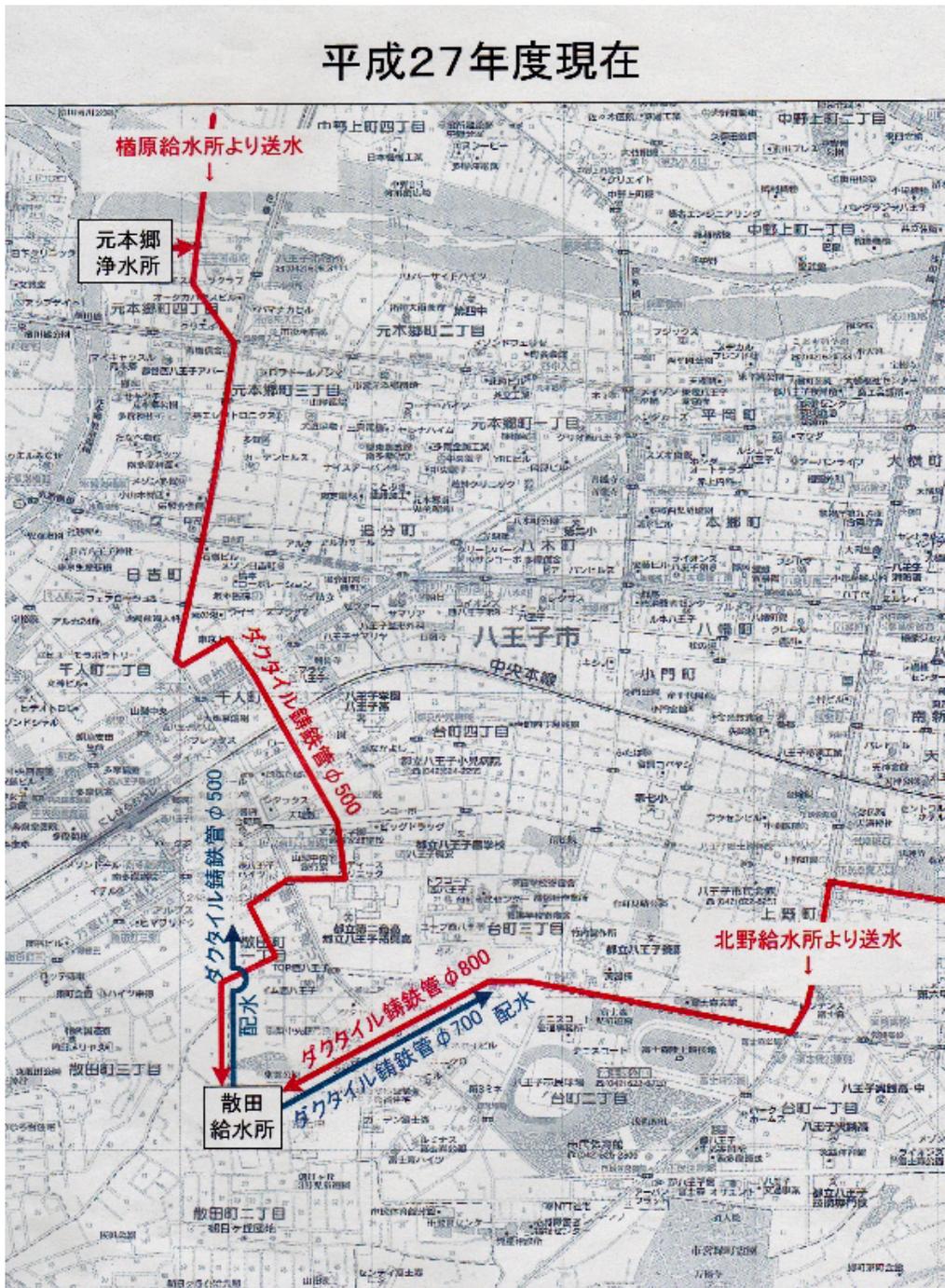
水神様全景

# 水道管 布設 概略 図

## 昭和3年度 当時



# 水道管 布設概略図



●多賀公園

(旧元本郷庁舎跡)



●明神町浄水場

第一期拡張工事  
(昭和二十五〜六年度)



明神町浄水場 (1970年後頃撮影)

●中野町浄水場

第二期拡張工事  
(昭和二十七〜九年度)



中野町浄水場 (1970年頃撮影)

## ●配水管延長

### 第三期拡張工事

(昭和三十一年～三年度)

昭和三十年(一九五五)四月一日、八王子は隣接する横山・元八王子・恩方・川口・加住及び由井の六つの村を合併した。合併以前にも各村の一部は水道が敷かれていたが、合併した新市域の給水が課題となった。このため、新市域への配水管の延長工事が計画された。

## ●元本郷浄水場内鑿井と

さくせい

### 浅川浄水場

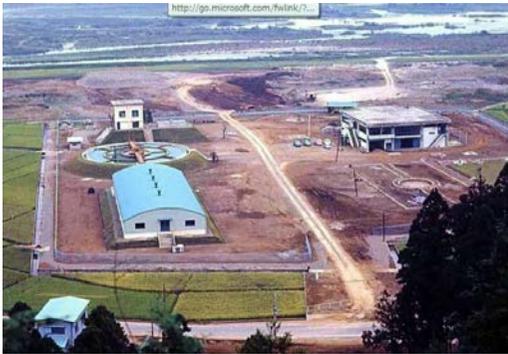
### 第四期拡張工事

(昭和三十四～七年度)

## ●高月浄水場

### 第五期拡張工事

(昭和三十六～四十三年度)



工事中の高月浄水場



浅川浄水場(1970年頃撮影)

## ●北野配水場(都受入れ施設)

### 第六期拡張工事

(昭和四十三年～五十年度)

急激な人口増加が見込まれ、昭和四十三年(一九六八)度より五十年までの予定で、給水区域の拡大を図るものであった。給水面積は、七一・三五 $\text{km}^2$ で、全市域の四十%を占めることとなり、推定人口五十万人に対し、計画は給水人口三十四万人で計画された。

## ●主な水道施設

### ・散田給水所(旧散田配水池)

所在地 散田町二丁目

設置年度 昭和三年度

容量 二〇〇〇〇 $\text{m}^3$ /H

### ・元本郷浄水所(旧元本郷町浄水場)

所在地 元本郷町四丁目

竣工 (地区水) 昭和四年三月

(都水) 昭和五十八年三月

容量 二七〇〇 $\text{m}^3$ /H

・暁町配水所

所在地 暁町三丁目  
設置年度 昭和二十九年  
容量 二五〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・元八王子配水所

所在地 元八王子町三丁目  
設置年度 昭和五十年  
容量 四五〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・鑪水給水所

所在地 鑪水四〇一  
設置年度 昭和五十年  
容量 五〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・暁町浄水所

所在地 暁町一丁目  
竣工 (地区水)昭和三十一年三月  
(都水)昭和五十七年三月  
容量 六〇九〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・西寺方給水所

所在地 西寺方町一〇〇六ノ一六七  
設置年度 昭和五十年  
容量 五〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・犬目第二給水所

所在地 犬目町七一〇  
設置年度 昭和五十一年  
容量 五三〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・高月給水所

所在地 高月町二二四〇  
設置年度 昭和四十年  
容量 一五〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・狭間給水所

所在地 狭間町一九九四ノ四七八  
設置年度 昭和五十一年  
容量 一五〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・檜原給水所

所在地 檜原町一二九四ノ三  
設置年度 昭和五十七年  
容量 四〇〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・高月浄水所(旧高月浄水場)

所在地 高月町四〇〇  
竣工 (地区水)昭和四十一年三月  
(都水)昭和四十六年三月  
容量 三二〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・北野給水所

所在地 北野町五九五ノ三  
設置年度 昭和四十七年  
容量 一五八〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・寺田配水所

所在地 寺田町一三五九ノ四  
設置年度 昭和五十七年  
容量 一〇〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・犬目第一給水所

所在地 犬目町六四三  
設置年度 昭和四十二年  
容量 五三〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・南陽台配水所

所在地 南陽台三丁目  
設置年度 昭和四十九年  
容量 一〇〇〇〇<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・南大沢給水所

所在地 南大沢四丁目  
設置年度 昭和五十七年  
容量 一四八五〇一<sup>3</sup>m<sup>3</sup>/H

・久保山配水所

所在地 保山町二丁目  
 設置年度 昭和五十九年度  
 容量 七三〇m<sup>3</sup>/H

・東浅川給水所

所在地 東浅川町六七一  
 設置年度 昭和六十三年度  
 容量 一三〇〇m<sup>3</sup>/H

・綾南公園内震災対策用応急給水水槽

所在地 長房町一五七二  
 設置年度 平成四年度  
 容量 一五〇〇m<sup>3</sup>/H

・大船給水所

所在地 七国三丁目  
 設置年度 平成六年度  
 容量 二二〇〇m<sup>3</sup>/H

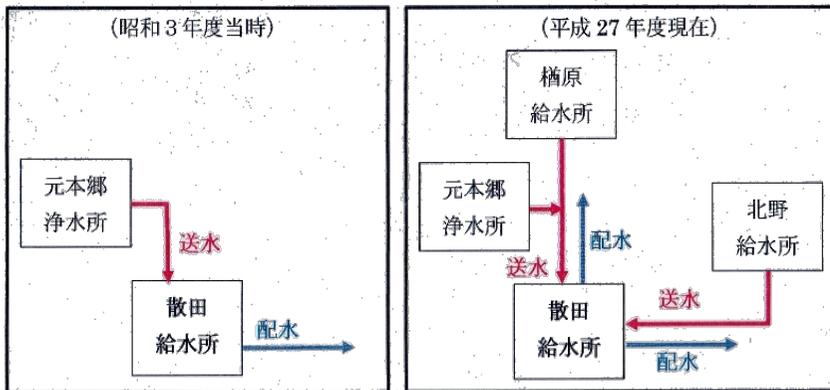
・大船配水所

所在地 みなみ野五丁目  
 設置年度 平成七年度  
 容量 二〇〇〇m<sup>3</sup>/H

・鐘水小山給水所

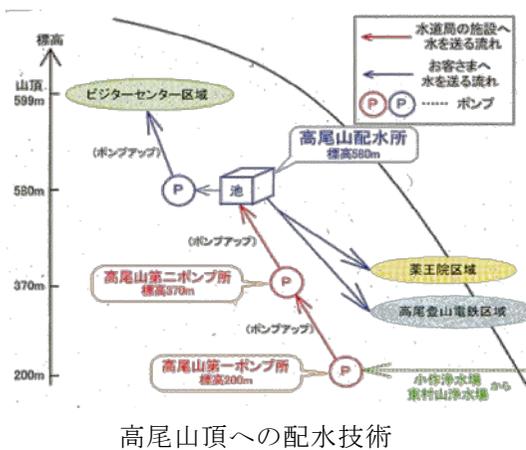
所在地 鐘水二丁目九二  
 設置年度 平成八年度  
 容量 七〇〇〇m<sup>3</sup>/H

水の流れ (別紙：水道管布設概略図 参照)



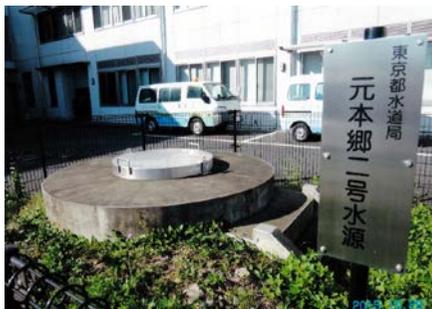
●高尾山配水所

東京都水道局は、水を供給するシステムを高尾山に造る決定をした。当初、標高四百m以上もある高地に安定的に水を供給することは非常に難しいと考えられていた。しかし、平成十五年設計に着手し、平成十八年から二十二年の五年にわたる工事の末に完成をみた。今では、観光客、登山者、震災時の補給などに安定した飲料水を確保できている。



## ② 旧水道道路

(写真で綴る)



都水道局元本郷二号水源



都水道局元本郷浄水所



都水道局から市役所まで  
(元本郷四丁目)



都元本郷浄水所内の接合井  
という池があった所



中央の道が散田水道山に  
入る水道通り



第一水道踏切 御所水通り  
(JR 中央線西八王子駅東側)

### ③ 路傍の石仏群

散田町一丁目五番

散田一丁目六番地の用水路がある脇道で、御所水通りに入る少し手前の小道に朽ちかけた石仏が立っている。石仏は一m近い馬頭観音や五十cm程の地藏様、それに庚申塔などである。これは幾度かの区画整理のおり、ここに集められたという。ときおり野花が手向けられている。



路傍の石仏

### ④ 千人塚地蔵尊

千人塚地蔵尊立像は、散田一丁目の富士森公園通りと御所水通りの交わる三叉路の脇に安置されている。高さは一mほど。建立は、「宝暦五年（一七五五）乙亥年」との刻字あり。云い伝えではこの付近には刑場があり、特に八王子落城の残兵や婦女子が惨殺されたといわれている。この地蔵尊は、以前この付近を転々と移動しており、今はこの場所に落ち着いている。

散田町二丁目から台町一・二丁目、山田町一帯は、古くは平塚と呼ばれた土地であった。遺跡調査によると、縄文時代から古墳時代前期には墓域を伴う集落跡が広範囲に展開していたと考えられている。



千人塚地蔵尊

## ⑤子育て地蔵尊

散田町三丁目三十二番地のT字路を西に行った角の覆屋に、二体の地蔵尊が安置されている。

〔左側〕高さ五十cmの合掌座像  
基壇には、

右 天〇三年卯十月日  
正 奉造立地蔵尊  
左 下散田村女念仏講拾二人  
と刻まれている。

〔右側〕高さ百cmの延命地蔵立像  
右 念仏供養為二世安樂  
左 永四年丁亥八月吉日  
と刻まれている。宝永四年は、一七〇七年である。

この地蔵尊は、子育て地蔵ともいわれ、八月二十四日には近くの民家を借りて御籠(参籠)が行われている。



散田水道山への登り口



水道山近くの階段脇に安置されている子育て地蔵尊全景



子育て地蔵尊

## ⑥ 散田給水所

散田町二一六一

設置は昭和三年（一九二八）。元本郷浄水所と同時期に建設された。鉄筋コンクリート構造で、横五十二m、縦三十六m、深さ六・六mが二池あった。建設当初の容量は、三三〇〇<sup>3</sup>m。その後、平成三年度から六年度に改良工事が行われ、現在有効容量二〇〇〇〇<sup>3</sup>m。給水件数は、約四万件。配水量は一日約二二〇〇〇<sup>3</sup>m時間最大約一五〇〇<sup>3</sup>mである。



散田給水所（旧散田配水地）



給水所と応急給水拠点として使用されている

### ● 東京都水道局

東京都水道局では、水道の震災対策として、浄水場や給水所などの施設が大きな被害を受けないよう耐震強化を図っている。停電が発生しても水の供給に支障がないよう、自家発電用設備の整備なども進めている。また、万一施設の被害により断水した場合なども想定し、飲料水の応急給水拠点の整備なども行っている。各家庭に、安全かつ美味しい水を供給すべく努力を続けている。



水道山階段上から見下ろした  
送配水道（道路の先が西八王子駅）



水道山階段上から見下ろした  
送配水道



松姫通りから水道山を見る



御所水通りから水道山を見上げた送配水道



富士森公園競技場

## ⑦ 富士森公園

八王子市台町二丁目三

桜の名所として市民の憩いの場となっている富士森公園は、浅間神社の鎮守の森である。

明治二十九年（一八九六）に富士森公園として開園、今日に至る。広大な公園の敷地内には、市営の野球場・体育館・グラウンド・テニスコートなどの運動施設が整えられている。

## ● 浅間神社

江戸時代初め、八王子の代官頭であった大久保石見守長安が、高さ約六尺の塚を築き、その上に浅間神社を勧請したと伝えられている。この塚は富士信仰で「富士塚」と呼ばれ、「富士森」命名の起源となっている。また、南北朝時代（十三世紀）にこの地に落ちのびた、南朝方の女公家「おふじの方」が塚を築いたものが「富士塚」と呼ばれたという伝説もある。台町二丁目の辺りは江戸時代は御所水村と言われ、南朝の落人伝説が残っている。

浅間神社の拝殿は大正天皇の葬儀に使われた祭場殿を移築したもので「大正殿」とも呼ばれる。神社の例祭は八月一日で、前夜の七月三十一日には境内で厄除け団子を売るだんご祭りが行われている。



富士塚



浅間神社



富士塚



このはなのさくやびめ  
木花開耶姫

### ●浅間神社例祭

七月三十一日は、浅間神社の祭礼が執り行われる。浅間神社は、富士森公園に隣接し、市民体育館の東隣りに位置し、台町・万町二丁目等の氏神様として、昔からこの周辺の住民の信仰を集めてきた。

浅間神社は、木花開耶姫を氏神とし、富士浅間様とも言い、慶長年間大久保石見守長安（徳川幕府創立の頃の関東総代官で、当時今の小門町に居住していた）が、駿河国の本宮浅間神社を分社し、現在の地に高さ約二丈、周囲六十間余りの塚を築き、頂上に浅間神社を勧請したのが起源となっている。

宝永年間（一七〇四〜十一）社殿が破壊に及び、延享二年（一七四五）改めて石造りの社殿を再建したのが現在の本殿であり、天明六年（一七八六）には石の階段が造られている。

例祭は、七月三十一日の夕刻の湯の華の神事から始まり、昔は夜の祭

りとして八月一日の未明まで続いた。参道から境内にかけてたくさん露店が並び、特に当夜売られる団子は有名で、これを食べると暑気にあたらぬとの言い伝えから「団子祭り」とも呼ばれる。この団子祭りの起りは、明治中頃社頭に居住して、宮守をしていた者が、神社に献じた洗米で団子を作り希望者へ分与したのが始まりで、当夜は市内はもとより近郊からも参拝者がたくさん集まり賑う。



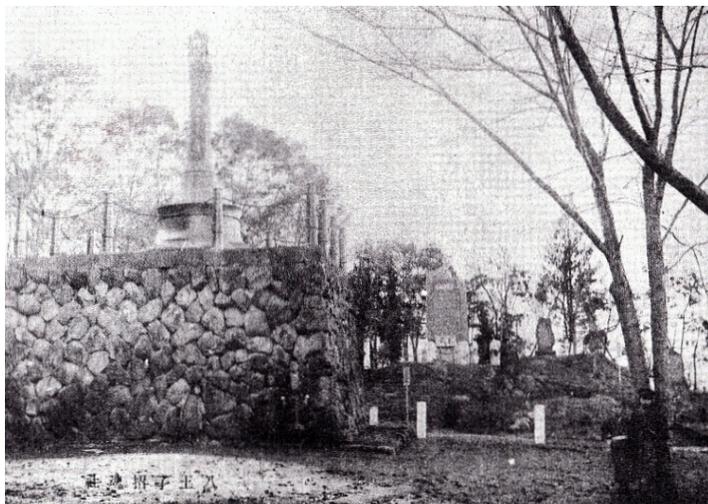
灯籠（明治39年）11月建立  
八王子軍人会

## ●八王子招魂社

大久保長安が勧請したと伝えられる浅間神社の丘は、富士森と呼ばれて親しまれていた。

明治二十九年（一八九六）四月八王子町は、富士森に報国忠魂碑を建立し公園を設置した。（富士森公園）八王子招魂社とはこの報国忠魂碑のことで明治十年（一八七七）の西南の役、及び明治二十七年〜八年（一八九四〜五）の日清戦争での戦病没者の霊を祀った碑に、国家が社格を与えて招魂社と称した。

石川日記や磯沼家文書によると実際碑が完成したのは十一月で、同月二十三日に招魂祭が行われたようだ。明治三十九年（一九〇六）日露戦争戦病没者の霊を合祀した。八つの石垣の上にそびえる青銅製の塔が忠魂碑である。第二次大戦後昭和二十一年十二月三十一日に撤去された。



八王子招魂社（明治四十年代）

## ● 「平和」の像

富士森公園内には平和像がある。「八王子市は先の第二次世界大戦において大きな戦禍を被り、多くの尊い人命が犠牲になりました。このような戦争による悲惨な生活は再び繰り返してはなりません。よって非核平和都市宣言十周年にあたり世界の恒久平和を願う市民の平和の象徴としてここに平和の像を建立します」

平成五年一月 八王子市

また八王子市は既に、昭和五十三年十二月二十一日世界連邦平和都市宣言、昭和五十七年六月二十九日八王子市非核平和都市宣言をしている。



平和の像



八王子海軍わだつみ会記念樹碑



忠霊塔



射撃訓練の碑



日清・日露の慰霊碑

## ●奥津雁江の碑

明治期の私立学校教師。相模国足柄の出身、本名定次郎、漢学を今川象外に、国学を吉田信行に学ぶ。その後八王子の本町に住む。明治十四年（一八八二）忠愛夜学校を創設、学齢を過ぎた者に忠君愛国を説く。大正七年（一九一八）七十八歳で没、元横山町の大義寺に眠る。辞世に「独笑のとらひの贅（いぼ）や石一つ残して帰る 阿字不生国」の歌碑がある。奥津雁江の碑は、富士森公園東側の斜面にある。



奥津雁江の碑

## ◎参考資料

- ・八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子市水道八十年のあゆみ
- ・八王子市議会史
- ・東京都水道局パンフレット
- ・八王子給水事務所の施設概要  
と水道管敷設概略図
- ・創立三十周年記念誌八管のあゆみ
- ・八王子市の水道
- ・多摩地区都営水道二十年のあゆみ
- ・地域史・散田とその周辺
- ・旧横山村石仏調査報告書一九九八
- ・八王子石仏百景
- ・第十号ふじもり御所水の里
- ・国土地理院地図
- ・インターネット各ページ
- ・歴史とロマンの散歩道
- ・人物はちおうじ
- ・セピア色の風景
- ・東京都教育庁計画課
- ・昭文社地図
- ・八王子市観光地図

メモ